

## ディスコグラフィー収載

### ディスコグラフィー【2025No.206】(HP 収載)

分類：LP

作曲家：ヴェルディ他

曲名：歌劇『椿姫』他

演奏：ナディーヌ・シエラ（ソプラノ）／リッカルド・フリッツァ指揮 RAI 国立交響楽団

発売：ドイツグラモフォン

No.：4863971

概要：



#### 【収録】

##### 《LP 1》

[Side A] ヴェルディ：歌劇『椿姫』第1幕より

- 1) 「不思議だわ!」、2) 「そは彼の人か」、3) 「ばか! それこそはかないたわごと!」、4) 「私はいつも自由で」、第3幕より 5) 「あなたは約束を守られた」、6) 「さようなら、過ぎ去った日々よ」

[Side B] ドニゼッティ：歌劇『ランメルモールのルチア』第1幕より

- 1) 前奏曲、2) 「まだ来ていらっしやらない」、3) 「あたりは沈黙に閉ざされ」、4) 「Quando, rapito in estasi」

##### 《LP 2》

[Side A] ドニゼッティ：歌劇『ランメルモールのルチア』第3幕より

1)「おお、まごうことなき天よ...優しいささやきが」、2)「何ということ！ 恐ろしい亡霊が」、3)「香炉はくゆり」、4)「Spargi d'amaro pianto」

【Side B】グノー：歌劇『ロメオとジュリエット』第1幕より

1)「私は夢に生きたい」、第4幕より 2)「ああ、なんという戦慄が」、3)「私のいとしい人よ、私の勇気を奮いたてて」

#### 【演奏】

ナディーーン・シエラ（ソプラノ）、パオロ・ファナーレ（テノール）（LP 1: Side A: 4）、  
ヴィエタ・ピリペンコ（メゾ・ソプラノ）（LP 1: Side B: 2-4）、リッカルド・フリ  
ッツァ（指揮）RAI 国立交響楽団

【録音】2020年10月26-31日、トリノ、RAI オーディオトリウム

#### 【解説】

世界のトップ歌劇場で活躍するアメリカの若きソプラノ歌手による最新アルバム  
《ナディーーン・シエラ～メイド・フォー・オペラ》

●アメリカのソプラノ歌手ナディーーン・シエラはその声の美しさ、流れるようなテクニク、豊かな音楽性で称賛され、現在のオペラ界に最も期待される若き才能の一人として迎えられています。このアルバムではドニゼッティのルチア（『ランメルモールのルチア』）、ヴェルディのヴィオレッタ（『椿姫』）、グノーのジュリエット（『ロメオとジュリエット』）という、19世紀のロマン派オペラの最も美しく挑戦的でドラマティックな3つの役を歌っています。

●ナディーーンは自身のことを、子供の頃から「オペラのために生まれてきた」と感じています。「私はいつも一つのことを確信していました。歌うことが好きだということを。朝目が覚めた時から一日が終わる時まで、歌うことしか考えられませんでした」とナディーーンは言います。

●「聞き取れる限界までに及ぶ素晴らしい高音域で歌う時、澄んだ、切れ味良く繊細な響きを持つその声は優しさを放つ」（『ル・モンド』紙）

2022年の収録ですので、RLAA、N、第4時定数 High で聴いていきます。

シエラは、当代随一の人気ソプラノ歌手であり、オペラやガラコンサートなど、STAGE+の配信で聴いていますので、アナログではどうかという興味がありました。ヴェルディの歌劇『椿姫』第1幕の6曲は、定番のアリアをテノールのファナーレとともに、近年のヴィオレッタのはまり役として演じています。『椿姫』は、STAGE+配信のズービン・メータ指揮のフィレンツェ五月音楽祭管弦楽団との演奏の模様を [STAGE+を楽しむ\(182\)](#) で報告しています。

ドニゼッティの歌劇『ランメルモールのルチア』第1幕の4曲は、1曲目のハープの柔らかく優美な音色が魅力的で、歌唱の間接音も豊かでステージ感がリアルです。

ドニゼッティ：歌劇『ランメルモールのルチア』第3幕の4曲は、シエラのしみじみとした歌唱やドラマティックな歌唱が聴けます。

グノーの歌劇『ロメオとジュリエット』第1幕の3曲は、シェラのダイナミックで切々と訴えるような歌唱が聴けます。1曲目はSTAGE+の配信のリサイタルでも聴けます。音質的には、最新の収録で最上の部類であり、シェラの歌唱力やオーケストラのステージ感の表現が出色です。

シェラの歌唱は、上記のとおり、最近STAGE+の配信でも聴くことが多いので、機会を見て配信とアナログを聴き比べてみます。

以上